

原子力規制委員会記者会見録

- 日時：平成30年1月31日（水）14：30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：更田委員長

<質疑応答>

○司会 定刻になりましたので、ただいまから原子力規制委員会の定例会見を始めます。

皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属と名前をおっしゃってから質問の方をお願いします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。ミウラさん。

○記者 読売新聞のミウラです。よろしくお願いします。

今度、玄海原発の方を委員長は視察されて、その後、委員長就任後初めてと思われませんが、自治体の首長さんたちとお会いになるということですが、この中で、自治体側の意見を聴くというところがメインなのかもしれませんが、委員長の方から伝えたいといひますか、メッセージというか、そういうことは何か考えていらっしゃいますでしょうか。

○更田委員長 まず、2月11日ですか、10日から出かけて行って、でも、11日になりますね。11日午前中に玄海の現地を見た後、午後2時間、時間をオフサイトセンターでとって、今、地元の首長さんとおっしゃったけれども、必ずしも首長さんだけではなくて、首長さんにかわる方、ないしは、それから、もうお一方、住民の方でも結構ですし、それは各自自治体の御判断にお任せしているのですけれども、各市町村の方から合わせて2名ですか、原則そういう形になっていると思いますけれども、お目にかかる。

これは、年が明けて規制委員会で取組について議論をした際に、地元の意見を伺おうと。ですから、委員長として初めてというか、原子力規制委員会としても初めて現地へ、立地地域の方に直接委員がお目にかかるというのは初めての試みです。

今、御質問の中にもあったように、主眼は聴くということであって、特段こちらから何かを説明にいくとか、説得にいくとか、そういった目的を持ったものではありません。あくまで目的は、原子力施設が立地する周辺地域の方々、その行政に携わる方、あるいはお住まいの方、そういった方の規制に対する、ないしは当該原子力施設に対する見解、意見を伺って、御質問があればお答えをします。そういうことで、こちらから特段こちらがこれを伝えたいというテーマを持って出向くわけではありません。

○司会 御質問のある方。それでは、右の列の後ろから3番目の方。

○記者 静岡新聞のオオハシと申します。よろしくお願いします。

先週、浜岡原発の方で配管の施工が図面と異なっているという問題が明らかになりま

して、規制委員会の方でも話が出たと思うのですけれども、この問題について、委員長として、深刻度合いといいますか、どのように受けとめているか伺えますでしょうか。

- 更田委員長 深刻度合いというのは、ちょっと表現するのは難しいと思いますけれども、安全上の非常に大きなインパクトがあるとか、あるいは規制上深刻な問題として取り上げるというような類いのものではないと思っています。

一方で、この浜岡に限らず、自らが所有して運用している設備について、現状をきちんと把握していないということがいろいろな形で問題として出てきている。発端と云えるかどうかですけれども、柏崎刈羽でケーブルの系統分離ができていなかった。これは本店といいますか、が社として確認している図面と現場の状態が異なっていた。それから、これはなかなか現場としても悩みの多いところかもしれないけれども、志賀の雨水流入であったって、構造をきちんと捉えていれば、あのような形で雨水が流入してしまうということは、自らが持っている施設をきちんと把握してれば、予見できた可能性が高い。

そういった意味で、自分が責任を持って所有し運用する設備について、現状をきっちり把握してくださいというのは、繰り返し各電気事業者に対して申し上げていることで、それが安全上重要な機器に関して言えば、これは規制がきちんと取り上げて監視をしなければならぬカテゴリーに入りますけれども、今回の浜岡であるとか、あるいは志賀の雨水ということに関しては、そもそも原子力事業者としての信用にかかわるものなので、これはきちんとやってほしい。ただし、規制当局がここをこうという、手とり足とりするような類いのものではないと思っています。

- 記者 それに関連してですけれども、浜岡については、今、原因調査中ということでしょうけれども、一般論としてということで構わないのですが、こういった問題が相次いでいて、なかなかなくならないという、その辺の原因というか、背景については、委員長はどうお考えになっているのでしょうか。

- 更田委員長 これはいろいろあるだろうと思います。そもそも原子力施設の運用に当たって、事業者の意識が、これは福島第一原子力発電所事故以前に関してですけれども、緩みがあったかもしれないし、それから、品質管理上の問題というのは、もう、たゆまざる向上を続けていかなければならない問題ですけれども、そのレベルをきちんと把握し切れているか。それから、長期間にわたって停止している施設であるということも、その一因であるかもしれなくて、やはり現場の士気であるとか、あるいは技術の伝承であるとか、そういったこともかかわってくるかもしれないと思います。なかなか難しい問題だと思います。

ただ、トラブルが眠っているのではなくて、表に出てくる、顕在化するというのは、ある意味、どこかできちんとうみを出し切らなければいけないところがありますので、こういったものが顕在化すること自体を問題視するのではなくて、そこから何を学ぶか、きちんと反省するかどうかだと思っています。

○司会 ほか、ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日の会見は以上とさせていただきます。お疲れさまでした。

—了—